

事業所名 若宮園グループホーム

日付 平成 21 年 3 月 11 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 医療機関経営者
実務経験10年以上

高齢者福祉・医療における
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

母体の病院関連施設とは離れて、緑に囲まれた福祉の園を設けている。その敷地内に、特養やデイサービスなど様々なグループ施設が混在し、各施設が患者のニーズに合わせた福祉の道を提供している。そういう環境に位置する。

管理部門も徹底がなされ、栄養管理に関しては、専属の管理栄養士が、季節を感じられるように夏場には、流し素麺を食事メニューに加えたり、また、入居者から聞き入れた物を献立にしたりしている。体調管理も、関連施設を含め看護師が急な異変にも即座に対応出来るように万全の体制を整えている。また、身近にお世話をする職員は、入居者に何でも興味を持ってもらう様に、会話をしながら入居者の視線を追い、何を考えているのかを事前に察知するように努めている。そして、入居者が自発的に興味のあるような事を行えるように職員は支援する環境作りを心がけている。さらに、入居者の楽しみや体力維持のために職員の介護に対する意識や知識のレベルアップに向けて、様々な会議や勉強会等を行ない、組織のボトムアップを図っている。例えば、関連施設での夏祭りや行事など積極的に参加し、様々な人や物と触れ合うことで、昔の思い出や経験を少しでも思い出せれる企画など、他にも様々なレクリエーションを取り入れ、自然と入居者の喜びが増すように知識の礎を築いている。

また、この施設は、前向きにホームへ顔を出してくれたり、家族の支援で外泊したりしてくれる積極的なご家族の方が多いので、職員は、家族とのふれあいがさらに大切にできるように心がけやすく、意見や要望、ケアプランにいたるまでじっくりと話ができて、頻りに尚且つ深く家族との交流が出来るのも、職員の福祉の取り組み方の現われのひとつである。

訪問調査当日、職員と入居者が一緒に12月のクリスマス会に向けての出し物の練習(楽器を使った演奏)をしていた。大変微笑ましい光景だった。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

外に出る機会やボランティア、研修受け入れといった事もあるようだが、地域との関わり合いがまだまだ薄いように感じられる。今後、周辺施設や地域との理解、協力に向けて、もっと働きかけが必要ではないでしょうか。また、職員の気が休まる空間(休憩所の確保等)を確保する事でリフレッシュでき、より集中力が生まれてくるのではないのでしょうか。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	入居者“らしさ”を引き出すために、職員力を合わせて協力しながら協調性を持って介護に取り組めるようなグループホームを目指している。また、判り易く印象に残るよう法人全体の理念を4文字で表現している。『淳風誠心(人に優しく真心込めて)』		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者の世代に合わせて、昭和時代の音楽を流している。また、ADLの変化、重度化への変更に伴い、なかなか実践に移せないもどかしさもある中で、職員の方達は毎週勉強会を行い、介護に取り組んでいる。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	昔から培ってきた仕事の思い出や、生活習慣等を思い出してもらおうと、職員は入居者に何にでも興味を持って取り組んでもらえるように考えながら介助にあたっている。(その例として、食事の準備の手伝いや、洗濯物たたみ、プリンターの草抜き等がある。)		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	職員は前向きに、勉強会を開催したり、主任クラスの人が集まって主務者会議を開いたりして、レベルアップを目指している。当たり前のことが、当たり前に出来ている。 入居者の下肢の低下もあり、転倒事故が発生したときの対処として、共同空間のソファの足元や居室のベッド横には検査マットを設置し、事故に備えている。		